



産業廃棄物処理計画書

令和5年5月30日

函館市長 大泉 潤 様

提出者

住 所 函館市海岸町9番23号

氏 名 株式会社 森川組

代表取締役社長 森川 基嗣

電話番号 0138-41-3126

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

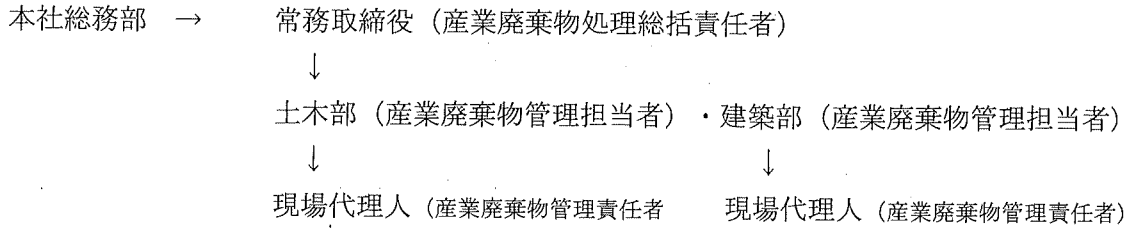
事業場の名称	函館市内現場
事業場の所在地	函館市内各現場
計画期間	令和5年4月1日 ~ 令和6年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	建設業
② 事業の規模	7,900百万円（令和4年度完成工事高）
③ 従業員数	85名
④ 産業廃棄物の一連の処理工程	<p>建築工事 がれき類→再生処理業者に委託して再生材として再資源化 木くず・金属くず・紙くず→再生処理業者に委託して、チップ・再生紙原料・スクラップとして再資源化 廃プラスチック→再生処理業者に委託して破碎後再生資源化 建設混合廃棄物→再生処理業者に委託して再生と埋立処分に分別する ガラスくず→最終処分業者に委託して破碎後、埋立処分</p> <p>土木工事 がれき類→再生処理業者に委託して再生材として再資源化 建設汚泥→再生処分業者に委託して、ばっ気焼却後スラグとして再資源化</p>

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度 (4年度) 実績】 別紙2-1～2-3に記載		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

## (第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（4年度）実績】		別紙3-1～3-6に記載
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
(今後実施する予定の取組)			
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場毎に1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「－」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

## (別紙 2 - 1)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック
	排 出 量	0.440 t	61.940 t
	(これまでに実施した取組) 資材の発注量精度を高め、残材などから生じる排出量を低減させた。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック
	排 出 量	0.000 t	50.000 t
	(今後実施する予定の取組) 資材の発注量精度を高め、残材などから生じる排出量を低減させる。		
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず
	排 出 量	7.840 t	132.715 t
	(これまでに実施した取組) 資材の発注量精度を高め、残材などから生じる排出量を低減させた。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず
	排 出 量	5.000 t	130.000 t
	(今後実施する予定の取組) 資材の発注量精度を高め、残材などから生じる排出量を低減させる。		

## (別紙 2 - 2)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラスくず
	排 出 量	97.496 t	83.400 t
	(これまでに実施した取組) 資材の発注量精度を高め、残材などから生じる排出量を低減させた。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラスくず
	排 出 量	90.000 t	80.000 t
	(今後実施する予定の取組) 資材の発注量精度を高め、残材などから生じる排出量を低減させる。		
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃石膏ボード	がれき類
	排 出 量	36.610 t	1,412.638 t
	(これまでに実施した取組) 資材の発注量精度を高め、残材などから生じる排出量を低減させた。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃石膏ボード	がれき類
	排 出 量	30.000 t	1,215.000 t
	(今後実施する予定の取組) 資材の発注量精度を高め、残材などから生じる排出量を低減させる。		



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	建設混合廃棄物	廃油
	排 出 量	95.938 t	4.370 t
	(これまでに実施した取組) 資材の発注量精度を高め、残材などから生じる排出量を低減させた。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	建設混合廃棄物	廃油
	排 出 量	85.000 t	3.000 t
	(今後実施する予定の取組) 資材の発注量精度を高め、残材などから生じる排出量を低減させる。		
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	石綿含有	
	排 出 量	19.500 t	
	(これまでに実施した取組) 資材の発注量精度を高め、残材などから生じる排出量を低減させた。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	石綿含有	
	排 出 量	15.000 t	
	(今後実施する予定の取組) 資材の発注量精度を高め、残材などから生じる排出量を低減させる。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック
	全処理委託量	0.440 t	61.940 t
	優良認定処理業者への 処理委託量		
	再生利用業者への 処理委託量	0.440 t	61.940 t
	認定熱回収業者への 処理委託量		
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量		
(これまで実施した取組) 解体工事による発生するものを除く建設資材の発注量の精度に 注意し、端材等の発生を抑えた。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック
	全処理委託量	0.000 t	50.000 t
	優良認定処理業者への 処理委託量		
	再生利用業者への 処理委託量	0.000 t	50.000 t
	認定熱回収業者への 処理委託量		
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量		
(今後実施する予定の取組) 解体工事による発生するものを除く建設資材の発注量の精度に 注意し、端材等の発生量を低減させる。			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず
	全処理委託量	7.840 t	132.715 t
	優良認定処理業者への処理委託量		
	再生利用業者への処理委託量	7.840 t	132.715 t
	認定熱回収業者への処理委託量		
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		
(これまで実施した取組) 解体工事による発生するものを除く建設資材の発注量の精度に注意し、端材等の発生を抑えた。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず
	全処理委託量	5.000 t	130.000 t
	優良認定処理業者への処理委託量		
	再生利用業者への処理委託量	5.000 t	130.000 t
	認定熱回収業者への処理委託量		
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		
(今後実施する予定の取組) 解体工事による発生するものを除く建設資材の発注量の精度に注意し、端材等の発生量を低減させる。			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラスくず
	全処理委託量	97.496 t	83.400 t
	優良認定処理業者への処理委託量		
	再生利用業者への処理委託量	97.496 t	
	認定熱回収業者への処理委託量		
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		
(これまでに実施した取組) 解体工事による発生するものを除く建設資材の発注量の精度に注意し、端材等の発生を抑えた。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラスくず
	全処理委託量	90.000 t	80.000 t
	優良認定処理業者への処理委託量		
	再生利用業者への処理委託量	90.000 t	
	認定熱回収業者への処理委託量		
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		
(今後実施する予定の取組) 解体工事による発生するものを除く建設資材の発注量の精度に注意し、端材等の発生量を低減させる。			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃石膏ボード	がれき類
	全処理委託量	36.610 t	1,412.638 t
	優良認定処理業者への処理委託量		
	再生利用業者への処理委託量		1,395.560 t
	認定熱回収業者への処理委託量		
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		
(これまで実施した取組) 解体工事による発生するものを除く建設資材の発注量の精度に注意し、端材等の発生を抑えた。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃石膏ボード	がれき類
	全処理委託量	30.000 t	1,215.000 t
	優良認定処理業者への処理委託量		
	再生利用業者への処理委託量		1,200.000 t
	認定熱回収業者への処理委託量		
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		
(今後実施する予定の取組) 解体工事による発生するものを除く建設資材の発注量の精度に注意し、端材等の発生量を低減させる。			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	建設混合廃棄物	廃油
	全処理委託量	95.938 t	4.370 t
	優良認定処理業者への 処理委託量		
	再生利用業者への 処理委託量		
	認定熱回収業者への 処理委託量		
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量		
(これまでに実施した取組) 解体工事による発生するものを除く建設資材の発注量の精度に 注意し、端材等の発生を抑えた。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	建設混合廃棄物	廃油
	全処理委託量	85.000 t	3.000 t
	優良認定処理業者への 処理委託量		
	再生利用業者への 処理委託量		
	認定熱回収業者への 処理委託量		
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量		
(今後実施する予定の取組) 解体工事による発生するものを除く建設資材の発注量の精度に 注意し、端材等の発生量を低減させる。			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	石綿含有	
	全処理委託量	19,500 t	
	優良認定処理業者への処理委託量		
	再生利用業者への処理委託量		
	認定熱回収業者への処理委託量		
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		
(これまでに実施した取組)			
解体工事による発生するものを除く建設資材の発注量の精度に注意し、端材等の発生を抑えた。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	石綿含有	
	全処理委託量	15,000 t	
	優良認定処理業者への処理委託量		
	再生利用業者への処理委託量		
	認定熱回収業者への処理委託量		
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		
(今後実施する予定の取組)			
解体工事による発生するものを除く建設資材の発注量の精度に注意し、端材等の発生量を低減させる。			

別添（函館市提出）

		発生量の目標	①産業廃棄物 発生量	②自己直接再 生利用量	③自己直接埋 立処分又は海 洋投入量	④自己中間処 理量	⑤自己中間処 理残さ量	⑥自己中間処 理後再生利用 量	⑦自己中間処 理後直接埋立 処分又は海洋 投入量	⑧委託処分量		
										再生	中間処理 (再生以外)	最終処分
汚泥	無機性汚泥	0.000	0.440							0.440		
	小計	0.000	0.440							0.440		
廃プラスチック	合成繊維 プラスチック製品くず	50.000	61.940							61.940		
	小計	50.000	61.940							61.940		
紙くず	紙くず	5.000	7.840							7.840		
	小計	5.000	7.840							7.840		
木くず	木	130.000	132.715							132.715		
	伐採材・伐根材											
	小計	130.000	132.715							132.715		
金属くず	金属	90.000	97.496							97.496		
	小計	90.000	97.496							97.496		
ガラスくず	陶磁器くず	80.000	83.400									83.400
	石膏ボード	30.000	36.610									36.610
	小計	110.000	120.010									120.010
がれき類	有筋コンクリート塊	200.000	226.120							226.120		
	無筋コンクリート塊	600.000	688.560							688.560		
	アスファルト塊	400.000	480.880							480.880		
	その他がれき	15.000	17.078									17.078
	小計	1,215.000	1,412.638							1,395.560		17.078
建設混合廃棄物	安定型のみ	5.000	7.948									7.948
	管理型含む	80.000	87.990									87.990
	小計	85.000	95.938									95.938
廃油	廃油	3.000	4.370									4.370
	小計	3.000	4.370									4.370
石綿含有	安定型	15.000	19.500									19.500
	小計	15.000	19.500									19.500
	小計											
	小計											
	小計											
	計	1,703.000	1,952.887							1,695.991		256.896